警鐘レポート5　血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡
事例1
＜事例概要＞ ・90歳代。内頸動脈狭窄症で頸動脈ステント留置術を施行。抗血栓薬を3剤服用中。 ・血管内治療時に大腿動脈を穿刺。治療後、止血デバイスおよび用手圧迫で止血。血圧が低下し、昇圧剤を投与。鎮静をかけたまま帰室。刺入部の腫脹、硬結なし。再度、血圧が低下し、昇圧剤を増量。ヘモグロビンが低下し、輸血を準備。帰室から約1時間半後、CTで大腿動脈穿刺部近傍に後腹膜血腫を確認した直後、心肺停止となり死亡。 ・解剖無、Ai無